Pathology and Clinical Medicine

(創刊)1983年1月 (発行日)毎月1日発行 (発行部数)5.000部 (判型)B5変型判·約100頁 (組仕様)本文横組・縦2段 (ED 刷)オフセット印刷 〔製 本)無線とじ

価)本体2,900円+税

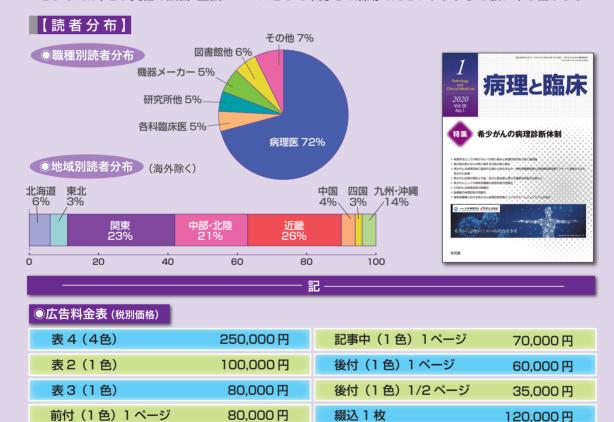
文 光 堂 〒113-0033 東京都文京区本郷7-2-7 TEL 03-3813-5478 FAX 03-3813-7241 https://www.bunkodo.co.ip

月刊「病理と臨床」広告掲載のご案内

〔定

月刊『病理と臨床』は病理医や臨床検査技師などの病理学関係者および臨床医、医学生などを対象にし た病理学専門誌として 1983 年の創刊以来, 日常の病理診断に役立つ実用的テーマを厳選して毎号特 集として取り上げ、臨床との密接な連携を念頭におきつつ、人体病理学の第一線に必要な病理診断の知 識を幅広く紹介しつづけております.連載では若手病理医にとって必要な情報や,病理医が知っている と役に立つ臨床各科の情報などを横断的に紹介しております。また、本誌は日本病理学会の学術機関誌 的役割も担っております

つきましては,ぜひ貴社の広告・宣伝スペースとして本誌をご活用くださいますようお願い申し上げます.



- 〔申し込み・広告原稿締め切り日〕発行日の前々月 25 日 ● 広告締切
- 広告原稿 *判型がB5変型判のため、広告サイズが通常のB5サイズよりも若干大きくなっております.

サイズ: 1頁 天地 226mm× 左右 165mm, 1/2頁 天地 113mm× 左右 165mm, ブリード 天地 262mm× 左右 190mm 形態:完全データ入稿

【記事体広告料金】2 色・1 頁: 130,000 円,4 色・1 頁:250,000 円(データ入稿) 綴込 1 枚:200,000 円(完成したものを納品) 【綴込記事広告についての特記事項】

※公式では日についている。 ●文中に広告である旨を表示してください.例)○○株式会社提供 ●事前に,著者名(対談者名)・タイトル・内容を編集部あてにご提出ください(納品締切の 1 ヶ月前頃にお願いします). *査読の結果,掲載をお断りする場合もございます.

◎お申し込み先/お問い合わせ先

株式会社 メディカルブレーン

〒113-0033 東京都文京区本郷 3-24-2 TEL: 03-3814-5980 FAX: 03-3814-5846

E-mail: medicalbrain@mbr-web.com

株式会社 福田商店広告部

〒540-0024 大阪市中央区南新町 2-4-3 グラント・ツルイ1 TEL: 06-6941-5600 FAX: 06-6941-5605

E-mail: info-f@adfukuda.jp

【本誌の概要】 日常の病理診断に役立つ実用的テーマを厳選して毎号特集として取り上げ、臨床との密接な連携を念頭に おきつつ、人体病理学の第一線に必要な病理診断の知識を幅広く紹介する病理学専門誌、日本病理学会の 学術機関誌的役割も担っている.

【編集委員】

編集委員長:北川昌伸(東京医科歯科大)

編集委員:宇於崎宏(帝京大) 亀山香織(慶應大) 長嶋洋治(東京女子医大)

谷田部 恭(国立がん研究センター中央病院) 編集顧問:深山正久(東大名誉教授, 国保旭中央病院)

【読者対象】

病理医や臨床検査技師などの病理学関係者および

臨床医. 医学生ほか

本誌の特色

- ●チーム医療の根幹を支える病理医の必修事項を毎月紹介!
- ●医学分野における進歩の道標,実験病理分野の最前線をピックアップ!
- ●全臓器をカバーし幅広い知識を必要とする病理医のために、 臨床各科との連携記事も充実!
- ●医学生, 研修医, 臨床医にもわかりやすい, オールカラーの病理専門誌!



本誌の構成 🚺 わかりやすく読みやすい4色刷りの誌面

●〈特集〉+〈連載〉+〈その他の関連記事〉



はじあじ 表々の体を構成する組織は特難販を加えとした開酵 機能により開酵されている。特難助とは自己定数類を 分化燃を持ち合わせる細胞を自己。組織の物性が終め においても多様が地球ぎょれ、何難以のが組織 においても多様が地球ぎょれ、何難以のが、 がより海膜とはかく数様が地球ぎょれ、 があり細胞は自己接対しながよみが外帯販を売む。 で、延縮明成かが後半かりを持ちが表がいる。しかしながら近中の解析すかの発性とより、から尋問か が分化した者がもがまかりを持ちまった。しかしながら近中の解析すかの発性とより、から尋問 能力をしまった。といったが、単数を対する実施技術を多か から他のからが、単数を対する実施技術を多か 力が他のからなど、小の細胞からがかく相関かのか 力が他のからという情報性に対する脱減が変化しつっ ある。

6る。 本稿では、2006年に初めて報告された iPS細胞¹¹を 本級では、2000年に初のて報告された18つ細胞で 含む様々な幹細胞の幹細胞性について基本的な事項を 解説した後、がん細胞の可置性を背景としたがん細胞 の階層構造の維持機構について最新の知見を交えて解 説し、がん幹細胞の概念について再考したい。

幹細胞とは、自己複製能と分化機の2つの特徴を併せ持一細胞のことを削す、幹細胞の分化能は異生過程 とともに段階的に制限され、その分化能に応じて全能 性幹細胞がは1900年は stem cell (指数) 半現を含む全て の機能に分化では)。多性性神細胞 pluriptent stem cell (指数と半異を除くあらゆる細胞に分化可能)。多

研究所 未来生命科学問所部門

1148 | 病理と臨床 2018 Vol. 36 No. 12

分化態性幹細数 multipotent stem cell (微表の細胞機 に分化可能)、単分化性幹細型 unipotent stem cell (経現の細胞のみを内的)と分類する。 さらに、人 工的に根立すれたを性性神器である。ES 間径 (代格 機能を加からは ES に cell は 2 に と に cell は 1 に を 能性神器 (charge は pluripotent stem cell は 1 は 7 形成 と中心態度分の形態を (1 かと に 上 を 2 に に cell は 1 利用 いでなく、再生原金を自動にあった。

10.52 無り ES 観り上の内容を持ち、 (ICM)に由え、人工的に関立された多様性有難な である。1840年にフスト医園形の耐えがゆって明さ である。1840年にフスト医園形の耐えがゆって明さ され、1959年には上り、ES 個別の向上の間含れて いる。185回記は即の分化調を行うこと。身 体や側点するある機能に分の間等を行うこと。分 のが大いに関すさいてある。またが 域が大いに関するたいの。また医園を例れた実 域的として、Jの報野で当成で変度を起したマンス よりが、医型を制度により、タッケッケックを代 表とした。1840年で変度を起したマンス よりがる運動が下立るようを開から使物の他だ よって現実になったといる。以上の功能のものとよって に対ける運動が下立るようを開からである。

ES細胞の機な した Capecch ル生理学・医 2. iPS 細胞 元来、細胞 化した細胞は る多値性の再 し、1958年に リカツメガコ cell nuclear (個体を誕生さ た細胞核であ

口速載口 マクロクイズ

【問題】 30歳代、女性、主訴は帯下異常、広汎子宮摘出術および 連載 除締検体・

できるという週間内な発見であった。さらに 2005年、 下記されから ドミグ Yamanaka は マク 末島 専事報ビ 志園 起く特別な 心を形別する シード する 心が 人 Su2、 KU4、一場への4つの選合子 (初時に4回)を ・場所に 金物の乗りせること でいる機能と 料限にある かる 総則への分化配を 付する 17年 規則の増化に収力し 別、このような事態から、Gurde ス Yamanaka は 2012年にノーベルを理学・ほ子変更した。現在 では、17年 総単一地では、近常性子で必要形成・体 の素相関係。ならびに再生影響への定用が耐力的に進 かられている。

第116回

●最近掲載の連載 〈マクロクイズ〉 〈切り出しのキモ〉 〈疾患 Globalization〉

…など



0307-0745/18/46: ¥100/10/F: ¥000/17/JCOPY

病理と臨床 2018 Vol. 36 No. 12 | 1201

●臓器別の疾患特集を中心に、 病理専門医試験対策や基礎 的事項のおさらいにも役立 つ内容,

000

Ⅱ. がん幹細胞とは

人細胞が現在することが明らかになりつ のモデルはが、幹細胞 cancer stem cel はも自己複製能および分化能を持ち合 細胞集団が存在しており、それらが定義 が人組織内の不均一性を生み出すという (かんや細胞モデル)、 の様々については1900 (だけに自然期 の様々については1900 (だけに自然期

A.脊靴屋モアル)。 夏念については1990年代に白血病細 から初めて提唱された^{6.7}。急性骨健 ayelogenous leukemia (AML) の腫瘍

1. がん幹細胞の存在

●2号にわたる大型特集, さら に実験病理学の最前線など を, WHO 分類や取扱い規約 の改訂,そのときどきのト ピックス性を鑑みて選定し ている.

> 日常病理診断に有用な実用的テーマを厳 選し,ベテランの病理医が「鑑別診断」「組 織の見方」など、若手病理医にとってぜひ とも必要な情報を提供.また,画像診断や 神経疾患の診断など, 病理医が知ってい ると役立つ、臨床各科の情報を横断的に 紹介.

そのほかの関連記事

CPC 解説,原著,症例,病理技術,情 報処理, Review / Opinion, 私の工 夫,ひろば等,投稿記事のほか,書評, 勉強会の案内をお知らせする Information など,情報記事も充実.